序説 生命力の思想……3

第一部 最良の医者……31

学問の花開いたアレクサンドリアとペルガモン……33
パドリアヌス治世下のローマ……38
ペルガモンのサテュルスの下で医学修行……42
アレクサンドリアで諸学派を学ぶ……46
父ニコンの薫陶……51
養生法への関心……55
ノスとディアテシス……58
エネルゲイアとペトス……64
統御を具現する自然力……73
転化の思想……79
多彩な学派の併立……86
アウレリウス帝のローマ……92
執政官ポエートゥスの庇護……97
故郷への逃避行……103
エラシストラトス継承派との争い……107

アスクレピアデス・テミソン・テッサルス……112
論敵の医者霍乱を批判……121
［全訳］最良の医者を見分ける書について……129
瀉血療法をめぐる争い……171
方法学派を非難……176
コス学派・クニドス学派・方法学派……185

第二部 自然生命力……193

［全訳］自然の諸力（自然生命力）について……195
第一巻……195
第二巻……239
第三巻……277

ガレノスの『自然生命力について』……319
ソフィストの前で……325
論敵の系譜……328
『自然生命力について』の構成……331
論敵への激しい攻撃……333
決定的な見解の相違……340
過多をめぐる論議……343

統一性の喪失とプトレマイオス……348
変質と不変質……350
浄化の意義……354
内在熱と血液……358
血液とプネウマ……361
自然力と温冷乾湿……363
ペトリーマ病因論……366
溶解と微細分化……371
正常な変質のための条件……373
自然生命力は温冷乾湿に他ならない……376
『自然生命力について』の巧みな論理……383
精気状の血液……387
胎生期の脈管系……393
脈管の中の動きは一方向性……399
粒子的機械論を批判……404
アスクレピアデスの尿生成論に反論……406
エラシストラトスの尿生成論を批判……411
レプトメレス説とガレノス……414
引き寄せとエピクロスの磁石……416
自然の摂理の具現と形態……425
エラシストラトスとアスクレピアデスも本質は……430

変質論としての受精現象……432
栄養同化のための留保力……442
胃の自然生命力……446
自然力と病気……450
自然生命力の具現の特徴……451
全身的な代謝出納の思想……454
適合性の考え……456
アスクレピアデス医学の消滅……462

終わりに——古代インド医学思想とガレノス……468

あとがき……499
主要参考文献……505
引用したガレノスの著書……507